

# パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報 2023年1月1日 232号  
世界平和地球村の建設と自然環境の保護

謹賀新年

2023  
令和5年



日本・パラグアイ・米国の若者で編成された第23回国際協力青年奉仕隊。パラグアイ共和国チャコ地域、エスパンサ村における奉仕活動で、汗を流して創造力と行動力を発揮し、人々に喜びと感動を与えた。

(パラグアイ川を背に、2022年9月)

明けましておめでとうございます

激動の二〇二二年でした。新たに迎える二〇二三年が希望に満ちた年となりますように祈念申し上げます。

地球創世時の姿をとどめるパンタナール大自然に、人類の希望の光となる福地建設を願われて23年が過ぎ24年目に入りました。そしてレダの地から子供の歓声が響き渡る時が来しました。老若男女全ての世代の人々が新しい希望の世界を目指して共に歩む時が来しました。人種を超え、言語の違いを超え、世代を超えて、地域に住む全ての人々が、人としての尊厳と誇りをもって、互いを認め、敬愛する心をもって一緒に生活する姿は、人類が等しく望み願ってきた世界です。

長い開拓の苦闘の末に今陽が昇らんとしています。まだまだ明け方の暗闇も残っているかもしれませんが、確実に陽が昇り始めました。雲が遮るときがあるかもしれませんが、しかし陽の輝きをとどめることはできないでしょう。二〇二三年、自信をもって進みましょう。

若者の力は我々通常の想像を超えて、道を切り開く大きなパワーとなることは、今日までの歴史が教えてくれています。今レダにおいても若者たちの感性と行動力、そして為に生きたいと願う強い心情が、今までにない新たな道を開拓しつつあります。

不毛の地が、そして見捨てられた地が、今23年間の汗と涙の精誠の土台の上に、子供たちの歓声と共に、命を与えられ、輝く時代の夜明けの時を迎えています。パンタナール精神はいかなる環境にある人々にも等しく生きる力と希望を与えてくれるでしょう。あのパラグアイ川に上る太陽の光のように。

二〇二三年、今年も皆様のご家族が健康で幸せでありますように、そしてご活躍をお祈り申し上げます。



二〇二三年元旦

一般社団法人

南北米福地開発協会

代表理事 中田欣宏



# レダ基地スナップ



チャパボラ二期生が釣りの実践。12月6日



力を合わせたメンバーたち。12月13日



パクーを養殖池から揚げる。12月13日



第一農場で農作業の体験実習。11月18日



農業体験中の二期生(右の2名)11月30日



一期生、大西さんが野菜の世話。12月8日



養殖パクーに食草を与える。11月18日



ずっしりと、パパイアの実。11月23日



ビタミン豊富な葉菜類を栽培。11月18日



養殖体験中の移動。11月18日



パクーの食草刈り。11月18日



間もなく食べ頃。11月23日



これぞ黄金のドラド。12月6日

**チャパボラ第二期生は**  
 12月10日、レダ体験実習の最後、釣りの路程を終了しました。以下、釣りの感想です。

●大野さん…初日は楽しかった。しかし、釣れないと自分の戦いが始まる。2日目ぐらいから、なかなか釣れない日が続いて、内心士気が下がっていた。ところが竹の一本竿で13匹釣れた。カワウソの群れを見たり、水草に針が引っかかるようなトラブルがあったり、最後はそれも含めて釣りを愛せて、感無量だった。

●澤木さん…初日の滑り出しもよく、思ったより釣れた。ボガやドラドも釣れて、色々与えられたなあと感じた。ピントード用の大針で釣りをしていたが、炎天下の中でずっと釣りを続けるのは一番大変だった。日に焼けるという苦しみを味わいながらも、はねるドラドや、カワウソとも出会った。感動を与えられたなあと一週間だった。

●源田君…初日から、釣りは試練と言われた。釣れないときが一番しんどかった。うまくいかないときは自分の中で葛藤したり、釣りを愛せない心境に陥ったりした。まだ釣りを本当に愛する思いはわからないけど、残り半年の中で文先生の思いを理解したい。



# 持続可能な福地建設をめざして17

## パートナーシップで目標を達成しよう

和田賢一



いよいよ、国連のめざすSDGs（持続可能な開発目標）の最終項目となりました。項目17は「世界のすべての人がみんな協力しあい、これらの目標を達成しよう」です。これまで考察してきました項目1から16までは、いかなれば具体的に目標でした。また、どうすれば可能ならしめるかを説いてきました。項目17はそれらを踏まえて、「協力してやっつけていくしかない」というわけです。

その項目17では、◆発展途上国が税金やその他の収入向上のための国際的支援を強化する。◆先進国は途上国に政府開発援助（ODA）をさらに増やす。◆先進国は途上国に借金取り消し、減額、返済期間の延長、返し方の再検討などを行う。◆科学技術の開発援助、高度な技術の移転や普及の推進。◆途上国の貿易促進への支援、協力、などを推し進めることを強調しています。SDGsの各項目を実現するために具体的な協力を促進するシステムの強化を示しているのが項目17ともいえます。こうした点について、各国も各国国際機関も応分の努力を重ねていることは事実です。

政府開発援助（ODA）を例にとると、わが国は、2012年には106億500万ドル（支出純額ベース）でしたが、その後、年々増えていき2021年には176億1900万ドル（贈与相当額ベース）に達しています。これらの支援は発展途上国のさまざまな開発目標への援助となっています。日本同様、米国、英国などの先進国も努力をしているのです。

各国の努力は、ODAによる数値だけではなく、さまざまな国連機関、各国のさまざまな援助の数値にも表れています。これまで論じてきたSDGsの各項目の中でも明らかにしていますので、ここで一つ一つ述べるまでもないことでしょう。問題は、「協力」というのは、強い精神と強い行

動があつて成り立つものです。今日、さまざまな国際問題を解決するために、あらゆる世界的な機関が国際会議を開催していますが、有効な解決策を見出すことは難しいといえましょう。また、解決策に合意しても、いざ実行する段になって、破綻したり、一定の歩みがなされても成果が乏しいことがあります。そのような国際的な取り決めの実情をこれまで山ほど見聞きしてきました。



国連総会ホール (by Patrick Gruban, Wikimedia Commons)

の解決方法もわかっていないのはなぜか。有識者は異口同音に、各国の利益の相違に原因を求めます。政治体制の違いが足を引っ張っているか。宗教の相違や国家の民族性の違いなど。宗

「国際協力の成功とは、小さくても継続している支援です。失敗は、目標は正しくても何らかの理由で」

「国際協力で必要なことは、成功や失敗に一喜一憂せず、課題を見つけ改善しながら支援を継続していく姿勢です。」

要は「継続」できるか否かが大事であるということです。「継続は力である」とよく言われますが、彼らの体験から出た貴重な教訓なのでしょう。これは組織の大小を問わない共通の認識でしょう。しかし、言葉を変えれば、継続するには力が必要ですか。その別のデータは何か？と問う必要がないでしょうか。セフ（国連児童基金）の2018年の国別の国民一人当たりの拠出額です。

経済協力開発機構（OECD）の開発援助委員会（DAC）のメンバー国の政府から出された拠出金を合計して、各国の人口で割って算出。

- ▼1位ノルウェー45.53億ドル、▼2位アイスランド35.64億ドル、▼3位スエーデン32.04億ドル、▼4位ルクセンブルク21.24億ドル、▼5位オランダ13.41億ドル、▼6位デンマーク11.59億ドル、▼7位英国9.05億ドル、▼8位スイス6.99億ドル、▼9位ドイツ6.65億ドル、▼10位フィンランド5.95億ドル。

では、日本はどうかというと18位で1.94億ドル。アメリカは14位で3.12億ドル、韓国は15位で3.13億ドルとなっています。

一つのデータだけで論じることはできないかもしれませんが、北欧諸国の拠出金は断トツで、子供に関する諸問題に極めて高い関心と問題解決への行動力の強さを示していると言えましょう。それぞれの国の諸事情を無視するわけではありません。またこのデータ一つで結論を出す考えもありません。

筆者が指摘したいのは、北欧の国々と日韓米の温度差は何によって生じているのだろうかということ。それは「国民一人一人の価値観による」と考えざるを得ないのです。一人一人の人間性、高い精神性の有無がすべての力の源泉であるのではないのでしょうか。それを生み出すのは、宗教や哲学、倫理ではないかと筆者は考えます。（つづく）



## 第24回パンタナール・ワンデイセミナーを開催

去る11月23日(祝)、東京都武蔵野市の武蔵野スイングホール10階スカイルームにおいて、当法人とNPO法人地球の緑を守る会の共催で「第24回パンタナール・ワンデイセミナー」を開催しました。新型コロナウイルス感染症予防策を徹底しての実行です。

当日は朝から本降りの雨天となりましたが、会場に集い来る参加者、講師、発表者、スタッフ各人の足どりや表情には、元氣と期待感が表れていました。司会には、和田賢一氏。スタートは提唱者文鮮明総裁の構想と心情を伝える柴沼講師。次いで植樹をライフワークとする高津講師。以後、参加者たちは最後まですべてのプログラムと真剣に取り組みました。

●「レダで活躍する青年たち」藤生輝彦青年局長、柴沼邦彦理事、●「パンタナールにおける植樹活動」高津啓洋NPO法人地球の緑を守る会代表理事、



11月23日 武蔵野スイングホール：石川仁氏撮影

●「レダにおける今後の展望」中田欣宏代表理事、●「入会案内」高橋容子さん ●分科会 ●感想

今回のセミナーの特徴は、全参加者の3分の2が初めての参加であったこと、20名以上の青年が参加したこと、現在レダで活動しているチャパボラの親御さん5名が参加したこと、そして、久しぶりに分科会を実行できたことです。4つの分科会のそれ

それで、熱心な質疑応答がなされ、「(自分あるいは子が)レダに行くためにはどんな準備が必要か?」「今すぐ自分ができることは何か?」という具体的な質問に関心が多く集まっていました。また、セミナー当日に入会申し込みをされた方や、その意志を表明された方も多くいらっしゃいました。

今回のワンデイセミナーでは、準備段階から青年の勢いが感じられました。またレダ現地からの報告は、レダプロジェクトの担い手が、若者たちに着実に移行しつつあることを示すものでした。

## オンラインLEDA青年集会を開催



12月11日(日) 21時から22時30分にかけて、当会青年局の主催により、レダ現地と日本および世界各地をZOOMでつないで、青年の集会が持たれました。

リアルを知りたい人集合!!」の呼びかけに、画面上では数えきれないほど多数の老若男女が参加。現地発表の途中でレダが停電で接続が切れるというハプニングはありましたが、すぐに復旧しました。まずこの集会には、予め24件の質問が寄せられていましたが、藤生青年局長が簡潔に回答しました。

●現地発表 ●LEDAの楽しみ方 ●源田君、●チャパボラ信仰生活アドバイス ●島田前青年局長、●LEDAでエビ養殖をする中で感じたこと ●岩本君、●LEDAからの発信(広報活動など) ●李さん、それぞれ約10分間、生の声と映像を伝えてくれました。

このオンラインLEDA青年集会は、年に4回開催する予定です。ご関心のある方は、下記事務局までお問い合わせください。

◆ブログ「レダの日常、日本の非日常」が好評です。登録はQRコードから。



## 一般社団法人 南北米福地開発協会 事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区  
溝口3-11-15  
岩崎ビル4F

電話: 044-829-2821  
FAX: 044-829-2820

支援金振込口座: ゆうちょ銀行  
記号10280 番号61349751  
一般社団法人 南北米福地開発協会

e-メール: office@asd-nsa.com  
ホームページ: https://asd-nsa.com  
Facebook: https://www.facebook.com/ledaproject.jp/

## 会員の皆様へ

会員の皆様には、周囲の方々にレダ・プロジェクトを紹介し、入会の案内をしていただければ幸いです。紹介用のパンフレット(印刷済み)、および入会申込書は、左記の事務局にお申しつけください。



入会申し込みは、左のQRコードから、グーグルフォームでも行えます。パソコンでは、下記のURLにアクセスしてください。

<https://asd-nsa.com/nk/>

## レダ・プロジェクト紹介用パンフレットPDF版



紹介用パンフレットは、ネットでも入手いただけます。

スマホなどの端末で、または印刷してクリアファイルに入れてどうぞ。



<https://asd-nsa.com/sk/>